

# 2022年度 第3四半期 決算説明会

2023年2月7日

**ブラザー工業株式会社**

**常務執行役員財務担当 伊藤 敏宏**

当資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来の業績に関する見通しであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度等に関するさまざまなリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

## 2022年度 第3四半期（10月-12月）実績

主に為替のプラス影響により増収となるものの、P&S事業における消耗品販売減による粗利減や販管費の増加、部材コストの高騰などにより、大幅な減益となる

◆ 売上収益 **2,168億円/+17.5%**（前年同期比）

✓ 為替が円安に推移したことによるプラス影響が増収に大きく寄与

◆ 事業セグメント利益 **160億円/▲31.8%**（前年同期比）

- ✓ P&S事業では、価格対応の効果があったものの、本体・消耗品の売上構成の変化や消耗品販売減にともなう粗利減により大幅な減益
- ✓ 販管費の増加や部材コストの高騰などが利益を圧迫

## 2022年度 通期業績予想

主にP&S事業における第3四半期の下振れ分の反映と第4四半期の計画を見直し、売上・事業セグメント利益ともに下方修正

## 2022年度 第3四半期決算

主に為替のプラス影響により増収となったものの、P&S事業における消耗品販売減による粗利減や販管費の増加、部材コストの高騰などにより、大幅な減益となりました。

## 売上収益

前年同期比 17.5%増の **2,168億円**となりました。

主に為替が円安に推移したことによるプラス影響が増収に大きく寄与しました。

## 事業セグメント利益

前年同期比 31.8%減の **160億円**となりました。

P&S事業において、価格対応の効果があったものの、本体・消耗品の売上構成の変化や消耗品販売減による粗利減により、大幅な減益となりました。加えて、販管費の増加や部材コストの高騰などにより、利益が圧迫されました。

## 2022年度 通期業績予想

主にP&S事業における第3四半期の下振れ分を反映するとともに、第4四半期の計画を見直し、売上収益と事業セグメント利益を下方修正します。

## 2022年度 第3四半期（10月-12月）業績

主に為替のプラス影響により増収となるものの、  
P&S事業における消耗品販売減による粗利減や  
販管費の増加、部材コストの高騰などにより、大幅な減益となる

単位：億円

	21Q3	22Q3	増減 ( ) は為替影響 除く増減	増減率 ( ) は為替影響 除く増減率
売上収益	1,845	<b>2,168</b>	324 (78)	17.5% (4.2%)
事業セグメント利益	235	<b>160</b>	▲75 (▲68)	▲31.8% (▲29.0%)
事業セグメント利益率	12.8%	<b>7.4%</b>		
その他の収益・費用	13	<b>55</b>	42	
営業利益	248	<b>215</b>	▲33	▲13.3%
営業利益率	13.5%	<b>9.9%</b>		
税引前利益	252	<b>219</b>	▲33	▲13.0%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	174	<b>127</b>	▲47	▲27.1%
USD	113.60	<b>141.16</b>	27.56	
EUR	130.39	<b>143.74</b>	13.35	

それでは、業績説明です。

2022年度 第3四半期の売上収益は、主に為替のプラス影響により、  
前年同期比 324 億円増となる **2,168 億円** となりました。

一方、利益面では、  
 事業セグメント利益は、 75 億円減の **160 億円**  
 営業利益は、 33 億円減の **215 億円**  
 親会社当期利益は、 47 億円減の **127 億円** となりました。

	売上収益			事業セグメント利益			営業利益		
	21Q3	22Q3	増減	21Q3	22Q3	増減	21Q3	22Q3	増減
P&S	1,149	1,337	188	178	91	▲87	179	102	▲77
マシナリー	208	257	49	28	28	0	28	26	▲2
ドミノ	207	255	48	8	11	3	8	3	▲5
ニッセイ	54	61	7	4	7	3	4	7	2
P&H	113	137	24	15	21	6	16	21	5
N&C	85	91	6	0	2	1	12	1	▲11
その他	28	31	3	2	2	0	2	55	54
<b>合計</b>	<b>1,845</b>	<b>2,168</b>	<b>324</b>	<b>235</b>	<b>160</b>	<b>▲75</b>	<b>248</b>	<b>215</b>	<b>▲33</b>

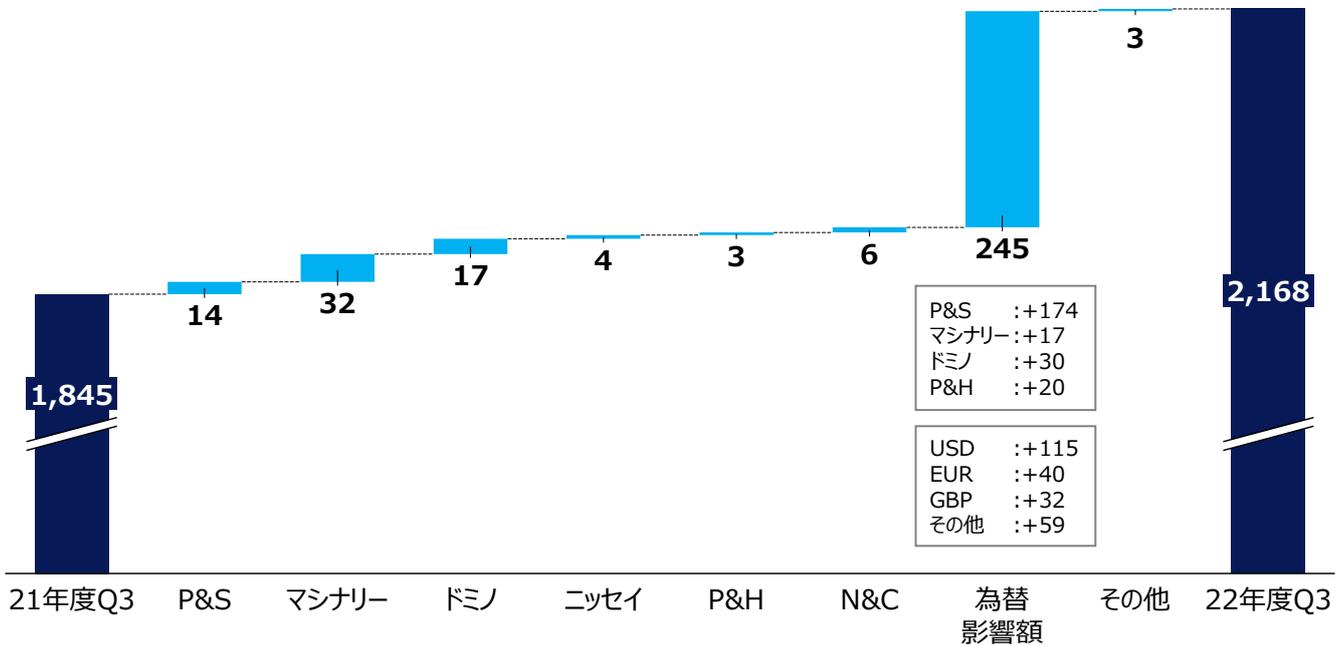
※「その他」にセグメント間取引消去額を含みます

事業セグメントごとの業績一覧です。

なお、中期戦略「CS B2024」（2022年度～2024年度）に基づき、2022年度より開示セグメントを変更しました。2021年度の数値は、現在のセグメントに組み替えたものを使用しております。以降のページも同様です。

主に為替のプラス影響により増収となる

単位：億円



※増減額は為替影響を除いた実質ベース

2022年度 第3四半期の売上収益の増減要因です。各事業、為替影響を除いた実質ベースの数値です。

・P&S

消耗品は販売が減少したものの、製品本体は好調に推移し、事業全体では増収となりました。

・マシンリー

工業用マシンは景気後退の懸念を受け販売が減少しました。  
産業機器は、部材不足による供給制約の影響があったものの、需要は堅調に推移し、事業全体では増収となりました。

・ドミノ

C&M・DPともに、消耗品が堅調に推移し、増収となりました。

・ニッセイ

設備投資需要の拡大により、減速機が好調に推移し、増収となりました。

・P&H

巣ごもり需要が一巡したものの、主に米州において販売が堅調に推移し、増収となりました。

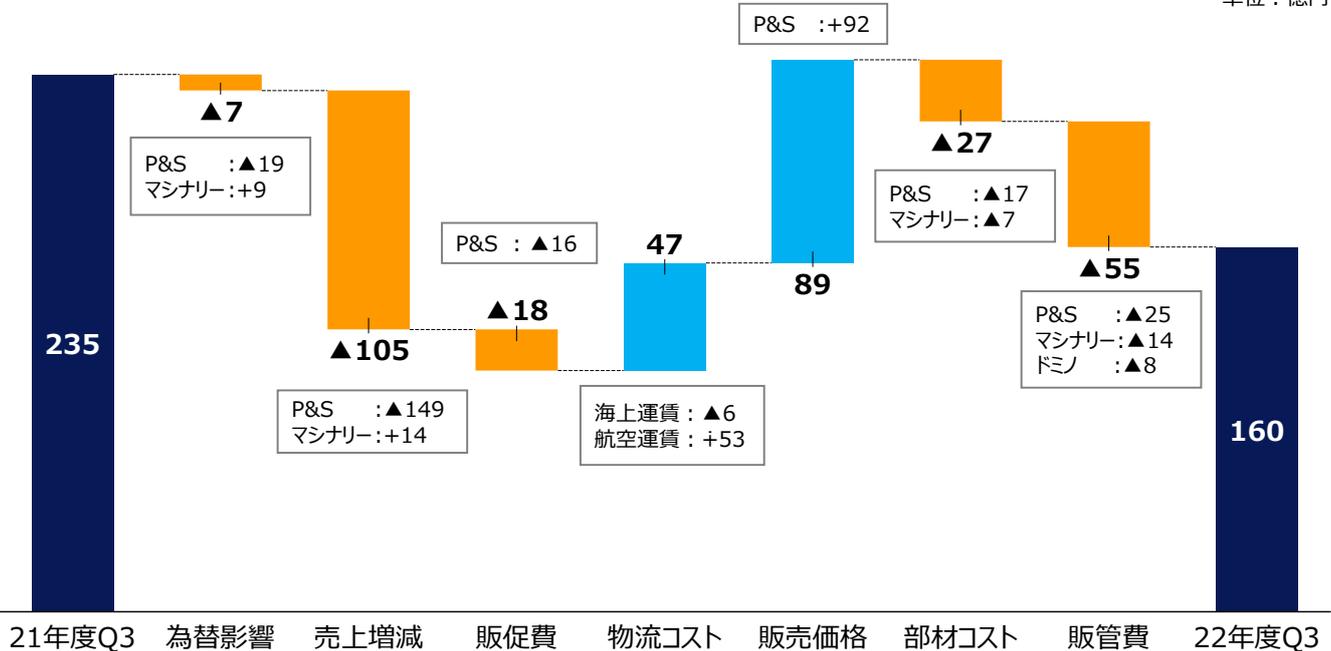
・N&C

新型コロナウイルス感染症に対する行動規制の緩和にともない客足が回復し、カラオケ店舗の売上が増加するとともに、カラオケ機器の販売が堅調に推移し増収となりました。

これらに、為替が円安に推移したことによるプラス影響 245 億円が加わり、  
全社では 324 億円増となる **2,168 億円** となりました。

主にP&S事業における価格対応の効果があったものの、  
本体・消耗品の売上構成の変化や消耗品販売減にともなう粗利減に加え  
販管費の増加、部材コストの高騰などにより、大幅な減益となる

単位：億円



事業セグメント利益の増減要因です。主な要素についてコメントします。

・為替影響

マシナリー事業などで為替のプラス影響があったものの、  
P&S事業では主にUSドルが円安に推移したことによるマイナス影響がありました。

・売上増減

P&S事業における本体・消耗品の売上構成の変化や消耗品の販売減にともなう粗利減が大きく影響しました。

・物流コスト

P&S事業において航空輸送費が前年同期から大幅に減少しました。

・販売価格

主にP&S事業によるものです。価格対応の効果などにより、平均単価が上がりました。

・部材コスト

主にP&S事業での電子部品などのコストアップによるものです。

・販管費

人件費や米国での物流関連費用などが増加しました。

これらにより、事業セグメント利益は、前年同期比 75億円減の **160** 億円となりました。

## 2022年度 第3四半期累計（4月-12月）業績

為替のプラス影響に加え、主にP&S事業が堅調に推移したことにより、増収となる事業セグメント利益は、P&S事業における価格対応の効果があったものの、消耗品販売減にともなう粗利減や、部材コストの高騰、販管費の増加などにより、大幅な減益となる

単位：億円

	21年度 Q3累計	22年度 Q3累計	増減 ( ) は為替影響 除く増減	増減率 ( ) は為替影響 除く増減率
売上収益	5,350	<b>6,135</b>	785 (124)	14.7% (2.3%)
事業セグメント利益	729	<b>520</b>	▲210 (▲259)	▲28.7% (▲35.5%)
事業セグメント利益率	13.6%	<b>8.5%</b>		
その他の収益・費用	31	<b>70</b>	39	
営業利益	760	<b>590</b>	▲170	▲22.4%
営業利益率	14.2%	<b>9.6%</b>		
税引前利益	768	<b>601</b>	▲166	▲21.7%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	543	<b>430</b>	▲113	▲20.8%
USD	111.38	<b>135.40</b>	24.02	
EUR	130.85	<b>140.42</b>	9.57	

2022年度の第3四半期累計期間の売上収益は、主に為替のプラス影響により、前年同期比 785 億円増となる **6,135 億円**となりました。

一方、利益面では、  
 事業セグメント利益は、 210 億円減の **520 億円**  
 営業利益は、 170 億円減の **590 億円**  
 親会社当期利益は、 113 億円減の **430 億円** となりました。

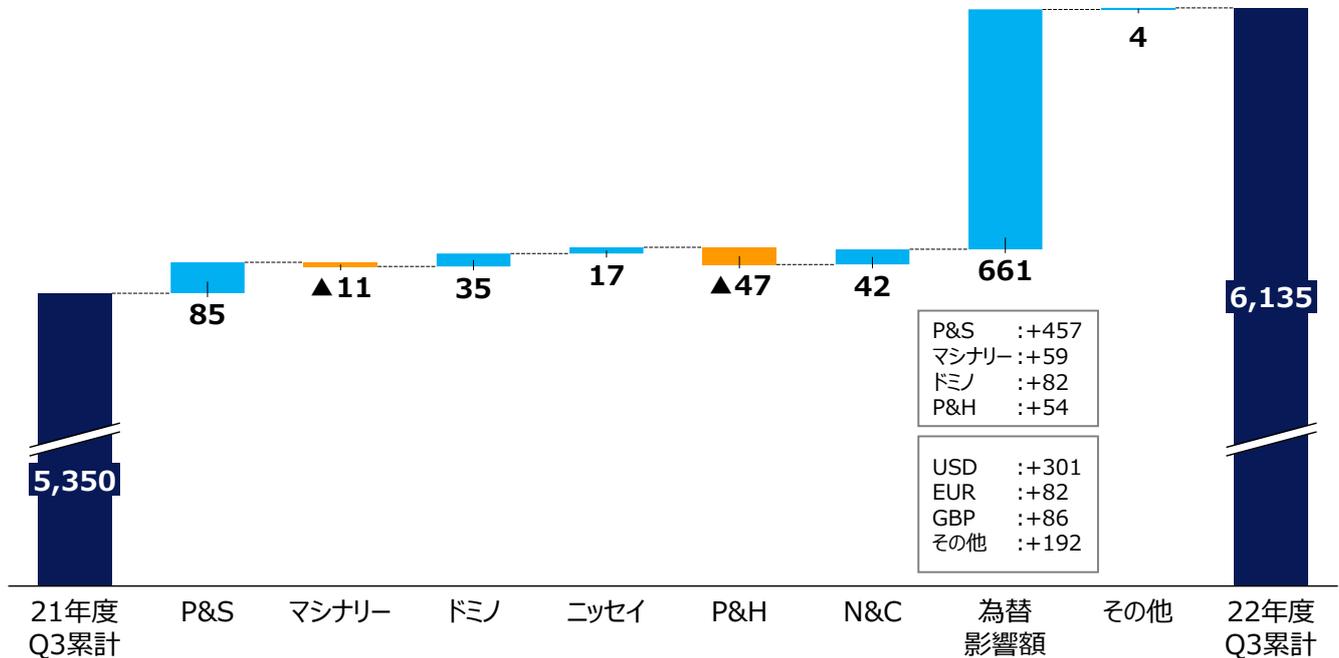
	売上収益			事業セグメント利益			営業利益		
	21年度 Q3累計	22年度 Q3累計	増減	21年度 Q3累計	22年度 Q3累計	増減	21年度 Q3累計	22年度 Q3累計	増減
<b>P&amp;S</b>	3,201	3,742	542	501	320	▲181	506	326	▲180
マシナリー	683	731	48	106	80	▲25	106	85	▲21
ドミノ	626	743	117	52	41	▲11	51	40	▲10
ニッセイ	154	180	25	14	19	5	15	19	5
P&H	389	395	7	73	48	▲25	74	49	▲25
N&C	218	260	42	▲19	5	25	3	10	7
その他	79	83	4	4	7	3	6	61	55
<b>合計</b>	<b>5,350</b>	<b>6,135</b>	<b>785</b>	<b>729</b>	<b>520</b>	<b>▲210</b>	<b>760</b>	<b>590</b>	<b>▲170</b>

※「その他」にセグメント間取引消去額を含みます

事業セグメントごとの業績一覧です。

主に為替のプラス影響により増収となる

単位：億円



※増減額は為替影響を除いた実質ベース

2022年度の第3四半期累計期間の売上収益の増減要因です。各事業、為替影響を除いた実質ベースの数値です。

・P&S

消耗品は、値上げ前の駆け込み需要の反動減などがあったものの、製品本体は、供給制約が緩和されたことにもなる販売数量の増加に加え、価格対応の効果もあり、事業全体では増収となりました。

・マシンリー

産業機器は、部材不足による供給制約の影響があったものの、自動車・一般機械市場向けの需要が堅調に推移しました。一方で、工業用マシンは、景気後退の懸念を受け販売が減少し、事業全体でも減収となりました。

・ドミノ

C&M・DPともに、消耗品が堅調に推移し、増収となりました。

・ニッセイ

設備投資需要の拡大により、減速機が好調に推移し、増収となりました。

・P&H

各地域で巣ごもり需要が一巡したことに加え、中高級機の販売が減少し、減収となりました。

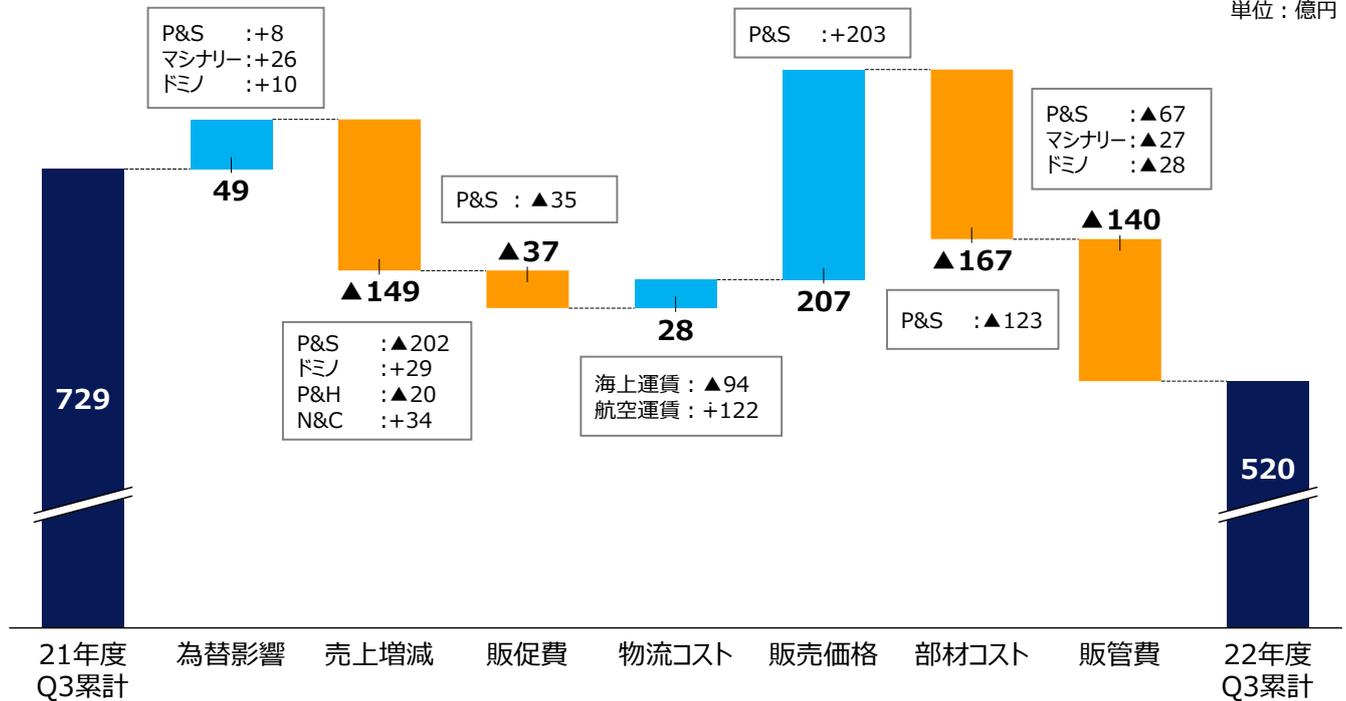
・N&C

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動規制の緩和にともない客足が回復し、カラオケ店舗の売上が増加するとともに、カラオケ機器の販売が堅調に推移し、増収となりました。

これらに、為替が円安に推移したことによるプラス影響 661 億円が加わり、全社では 785 億円増の **6,135 億円**となりました。

価格対応の効果や為替のプラス影響があったものの、主にP&S事業における本体・消耗品の売上構成の変化、消耗品販売減にともなう粗利減や、部材コストの高騰、販管費の増加などにより減益となる

単位：億円



© 2023 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

12

事業セグメント利益の増減要因です。主要な要素についてコメントします。

・為替影響

ほぼすべての事業で為替のプラス影響がありました。

・売上増減

P&S事業における本体・消耗品の売上構成の変化や消耗品の販売減にともなう粗利減が大きく影響しました。

・販売価格

主にP&S事業によるものです。価格対応の効果などにより、平均単価が上がりました。

・部材コスト

主にP&S事業における電子部品などのコストアップによるものです。

・販管費

人件費や米国での物流関連費用などが増加しました。

これらにより、事業セグメント利益は、前年同期比 210 億円減の **520** 億円となりました。

## 2022年度 通期業績予想

主にP&S事業における第3四半期の下振れ分の反映と第4四半期の計画を見直し、  
 売上・事業セグメント利益ともに下方修正

単位：億円

	前回予想	22年度 今回予想	増減 ( ) は為替影響 除く増減	増減率 ( ) は為替影響 除く増減率	21年度 実績	増減 ( ) は為替影響 除く増減	増減率 ( ) は為替影響 除く増減率
売上収益	8,400	<b>8,250</b>	▲150 (▲206)	▲1.8% (▲2.5%)	7,109	1,141 (346)	16.0% (4.9%)
事業セグメント利益	700	<b>650</b>	▲50 (▲62)	▲7.1% (▲8.9%)	846	▲196 (▲228)	▲23.1% (▲26.9%)
事業セグメント利益率	8.3%	<b>7.9%</b>			11.9%		
その他の収益・費用	30	<b>80</b>	50		9	71	
営業利益	730	<b>730</b>	0	0.0%	855	▲125	▲14.6%
営業利益率	8.7%	<b>8.8%</b>			12.0%		
税引前利益	730	<b>730</b>	0	0.0%	864	▲134	▲15.5%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	510	<b>510</b>	0	0.0%	610	▲100	▲16.4%
USD	134.92	<b>135.13</b>	0.21		112.86	22.27	
EUR	137.61	<b>139.67</b>	2.06		131.01	8.66	

© 2023 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

14

通期の業績予想についてです。

業績予想の前提となる予想部分の為替レートは、  
 1 USD = 135円、1 EUR = 135円で前回から変更していません。

売上収益は、為替のプラス影響があったものの、主にP&S事業における下振れと第4四半期の計画の見直しを反映し、  
 2022年11月9日に公表した前回予想から 150億円減 の **8,250億円** に引き下げます。

事業セグメント利益についても、売上収益の見直しにともない、  
 50億円減の **650億円** に引き下げます。

営業利益以下の各段階利益は、固定資産の売却益などがあり、前回予想から変更していません。

# 2022年度通期 事業セグメント別予想

単位：億円

	売上収益			事業セグメント利益			営業利益		
	前回予想	22年度 今回予想	増減	前回予想	22年度 今回予想	増減	前回予想	22年度 今回予想	増減
P&S	5,132	4,993	▲139	430	370	▲60	430	376	▲54
マシナリー	1,053	1,053	0	135	135	0	136	136	0
ドミノ	966	988	22	43	47	4	42	47	5
ニッセイ	234	234	1	18	18	0	16	17	1
P&H	517	508	▲9	60	60	0	60	61	1
N&C	361	352	▲9	4	1	▲3	4	4	0
その他	137	122	▲15	10	19	9	42	89	47
<b>合計</b>	<b>8,400</b>	<b>8,250</b>	<b>▲150</b>	<b>700</b>	<b>650</b>	<b>▲50</b>	<b>730</b>	<b>730</b>	<b>0</b>

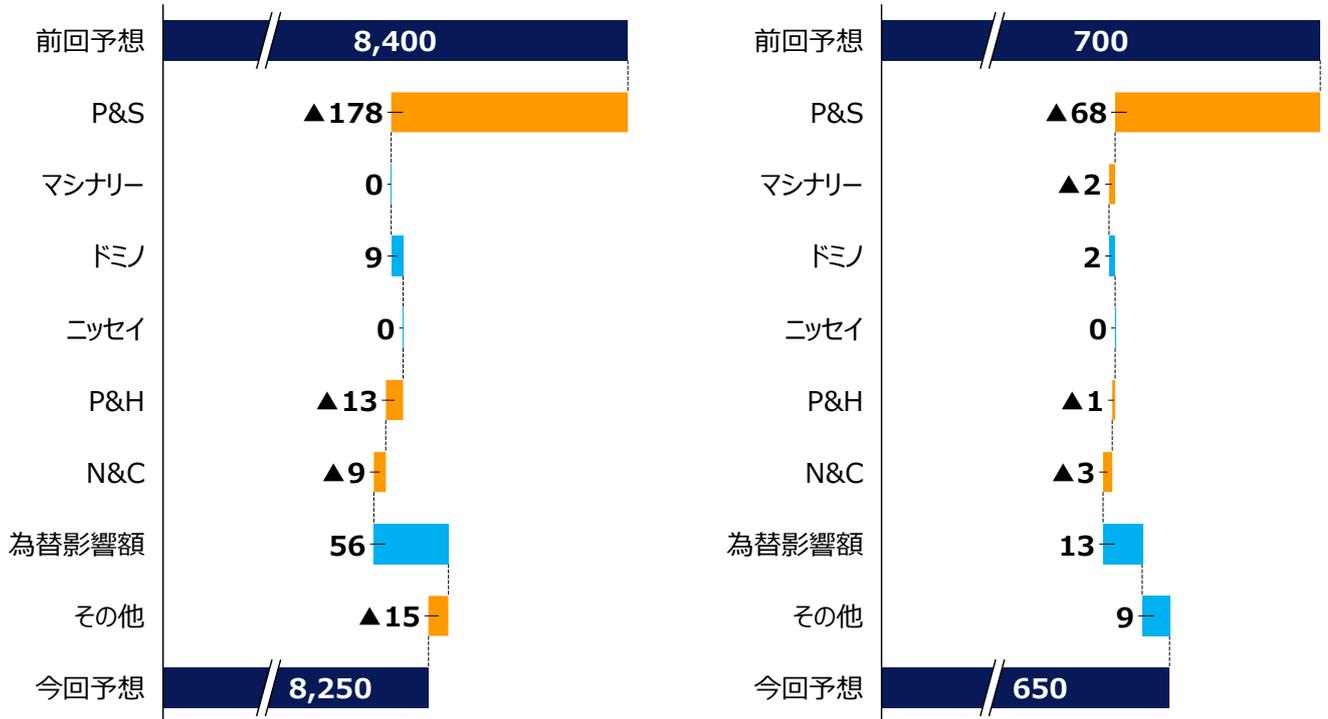
※「その他」にセグメント間取引消去額を含みます

事業セグメントごとの業績予想の一覧です。

売上収益の増減

事業セグメント利益の増減

単位：億円



※増減額は為替影響を除いた実質ベース

2022年度の売上収益・事業セグメント利益の前回予想からの主な修正要因です。

・P&S

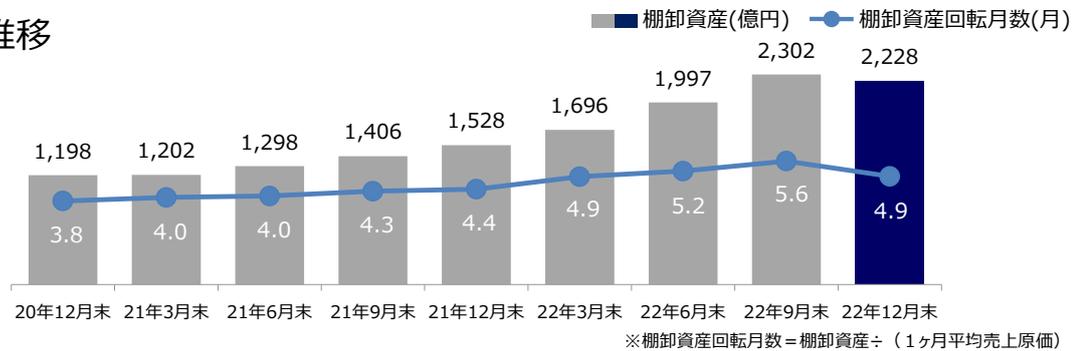
売上・利益ともに、第3四半期における下振れと、第4四半期における計画の見直しを反映し、下方修正します。

上記に為替のプラス影響が加わるものの、売上収益・事業セグメント利益ともに通期の業績見通しを引き下げます。

	22年3月末	22年12月末	増減
流動資産	4,767	5,027	260
現預金	1,679	1,077	▲602
棚卸資産	1,696	2,228	532
非流動資産	3,344	3,405	61
負債合計	2,499	2,533	34
有利子負債	408	432	23
株主資本	5,611	5,899	287
総資産	8,111	8,432	321

	22年3月末	22年12月末	増減
ネット・キャッシュ	1,271	646	▲625
株主資本比率	69.2%	70.0%	0.8%
ROE	11.7%	-	-

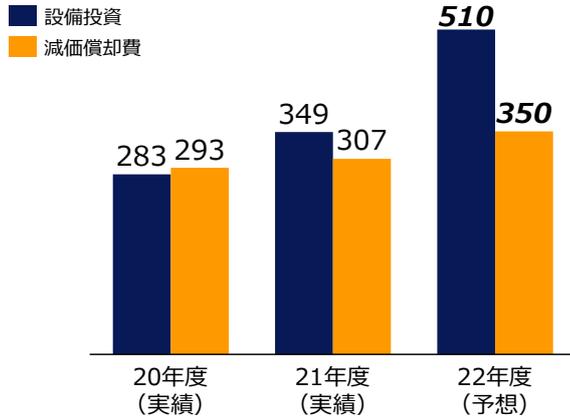
棚卸資産推移



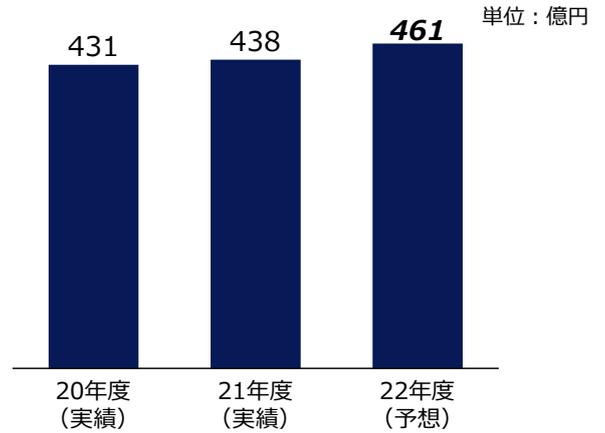
ネットキャッシュは、646億円 となりました。

棚卸資産については、2022年9月末時点からは減少していますが、依然として、P&S事業を中心に在庫水準が高い状態が続いています。需要に合わせて生産を調整するなど、期末に向けて引き続き適正化に努めていきます。

設備投資・減価償却費



研究開発費



設備投資内訳

	20年度	21年度	22年度
産業用領域	52	68	113
民生用領域他	231	281	397
計	283	349	510

研究開発費内訳

	20年度	21年度	22年度
産業用領域	91	103	129
民生用領域他	340	335	332
計	431	438	461

\*産業用領域は、マシンリー事業、ドミノ事業、ニッセイ事業の内訳を合算したものです。

2022年度の設備投資、減価償却費、研究開発費については、前回公表時から変更はありません。

## セグメント業績概要

# プリンティング&ソリューションズ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

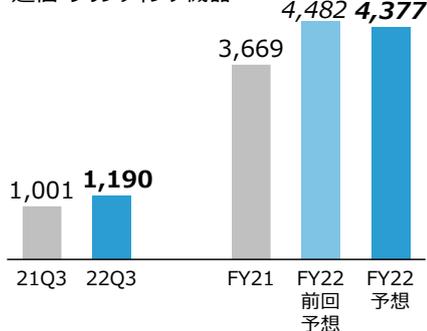
brother  
at your side

単位：億円

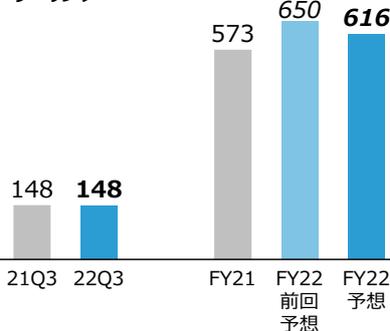
	21Q3	22Q3	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 前回予想	FY22予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>1,149</b>	<b>1,337</b>	<b>16.4%</b>	<b>1.2%</b>	<b>4,242</b>	<b>5,132</b>	<b>4,993</b>	<b>17.7%</b>	<b>4.6%</b>
<b>通信・プリンティング機器</b>	<b>1,001</b>	<b>1,190</b>	<b>18.9%</b>	<b>3.3%</b>	<b>3,669</b>	<b>4,482</b>	<b>4,377</b>	<b>19.3%</b>	<b>6.0%</b>
米州	357	472	32.4%	8.1%	1,307	1,800	1,741	33.2%	12.2%
欧州	330	369	12.1%	1.3%	1,210	1,335	1,332	10.1%	2.4%
アジア他	176	217	23.6%	9.3%	698	860	839	20.3%	7.0%
日本 (OEMを含む)	139	131	-5.9%	-11.5%	455	486	465	2.2%	-3.7%
<b>ラベリング</b>	<b>148</b>	<b>148</b>	<b>-0.4%</b>	<b>-13.2%</b>	<b>573</b>	<b>650</b>	<b>616</b>	<b>7.4%</b>	<b>-4.6%</b>
米州	65	64	-2.1%	-20.2%	260	321	289	11.3%	-6.4%
欧州	46	49	6.7%	-3.2%	173	181	182	5.2%	-1.8%
アジア他	24	23	-3.5%	-14.6%	91	102	99	8.2%	-3.8%
日本	13	11	-11.1%	-11.1%	49	47	46	-6.4%	-6.4%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>178</b>	<b>91</b>	<b>-49.0%</b>	-	<b>598</b>	<b>430</b>	<b>370</b>	<b>-38.1%</b>	-
<b>営業利益</b>	<b>179</b>	<b>102</b>	<b>-42.9%</b>	-	<b>594</b>	<b>430</b>	<b>376</b>	<b>-36.7%</b>	-

<売上収益>

通信・プリンティング機器

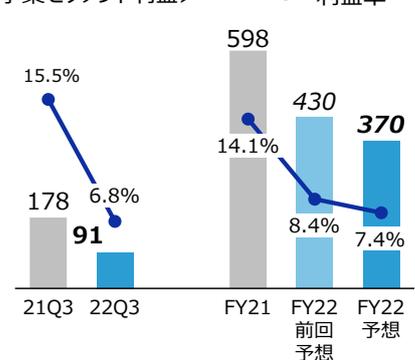


ラベリング



<事業セグメント利益>

● 利益率



© 2023 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

20

P&S事業の第3四半期の売上収益は **1,337** 億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、プラス1.2%となりました。

## ・通信・プリンティング機器

売上収益は **1,190** 億円。現地通貨ベースでの伸び率は、プラス3.3%となりました。  
詳細は次のページでご説明します。

## ・ラベリング

売上収益は **148** 億円。現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス13.2%となりました。  
部材不足による供給制約の影響が継続し、主に製品本体の販売が落ち込みました。

事業セグメント利益は、**91** 億円。

価格対応の効果があったものの、本体・消耗品の売上構成の変化や消耗品販売減にともなう粗利減に加え、  
販管費の増加や部材コストの高騰などにより、大幅な減益となりました。

	20Q1	20Q2	20Q3	20Q4	21Q1	21Q2	21Q3	21Q4	22Q1	22Q2	22Q3	22Q4	20通期	21通期
<b>LBP</b>														
売上伸び率（円ベース/前年比）														
本体	6%	19%	18%	18%	-10%	-4%	-9%	-8%	41%	45%	42%	-	15%	-8%
消耗品	-18%	1%	0%	-1%	21%	15%	14%	16%	18%	-8%	0%	-	-5%	16%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）														
本体	11%	22%	21%	18%	-16%	-9%	-15%	-13%	25%	23%	21%	-	18%	-13%
消耗品	-15%	2%	2%	-3%	12%	9%	6%	9%	7%	-20%	-13%	-	-4%	9%
<b>IJP</b>														
売上伸び率（円ベース/前年比）														
本体	-37%	-49%	-12%	-3%	90%	95%	17%	15%	18%	32%	46%	-	-25%	45%
消耗品	-23%	-1%	9%	-6%	11%	-6%	-3%	2%	19%	-2%	8%	-	-5%	0%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）														
本体	-33%	-48%	-9%	-3%	79%	87%	11%	10%	8%	16%	30%	-	-23%	38%
消耗品	-20%	-1%	10%	-8%	5%	-10%	-7%	-2%	11%	-12%	-2%	-	-5%	-4%
消耗品比率	55%	57%	55%	56%	56%	57%	58%	59%	53%	47%	49%	-	55%	57%
販売台数伸び率（前年比）														
LBP	12%	10%	6%	0%	-28%	-16%	-20%	-16%	14%	9%	3%	-	7%	-20%
IJP	-39%	-57%	-24%	-25%	65%	101%	1%	7%	8%	16%	42%	-	-36%	34%

第3四半期におけるプリンティング主要製品の売上伸び率・構成比についてです。

**・売上伸び率（現地通貨ベース）**

レーザー（LBP）の売上伸び率は、本体はプラス 21%、消耗品はマイナス 13%、  
インクジェット（IJP）の売上伸び率は、本体はプラス 30%、消耗品はマイナス 2%となりました。

製品本体は、供給制約が緩和されたことなどにもなう販売数量の増加に加え、  
価格対応の効果もあり、前年同期を大幅に上回りました。

消耗品は、欧州における値上げ前の駆け込み需要の反動は落ち着いてきたものの、  
米国での物流の混乱の影響や、主に欧米でのチャネル在庫の抑制が継続し、レーザーを中心に大きく落ち込みました。

**・販売台数伸び率**

レーザー複合機・プリンターは、部材不足による供給制約があった前年同期と比較して販売台数は好調に推移しました。  
インクジェット複合機は、アジア向けタンクモデルを中心に販売台数が好調に推移しました。

# マシナリー事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

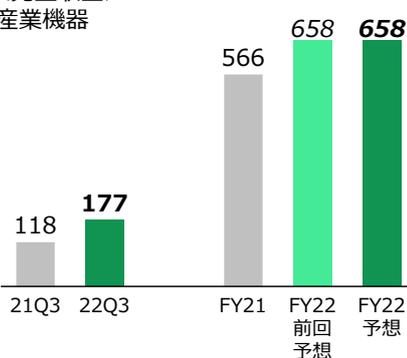
brother  
at your side

単位：億円

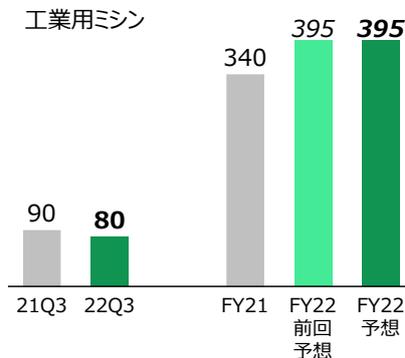
	21Q3	22Q3	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 前回予想	FY22予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>208</b>	<b>257</b>	<b>23.3%</b>	<b>15.1%</b>	<b>905</b>	<b>1,053</b>	<b>1,053</b>	<b>16.3%</b>	<b>7.7%</b>
<b>産業機器</b>	<b>118</b>	<b>177</b>	<b>50.2%</b>	<b>45.7%</b>	<b>566</b>	<b>658</b>	<b>658</b>	<b>16.4%</b>	<b>11.4%</b>
米州	7	13	78.7%	-	33	35	35	7.2%	-
欧州	9	12	29.4%	-	34	35	35	2.8%	-
アジア他	81	123	52.3%	-	408	444	444	8.7%	-
日本	21	30	41.3%	-	90	143	143	59.5%	-
<b>工業用マシン</b>	<b>90</b>	<b>80</b>	<b>-11.9%</b>	<b>-24.8%</b>	<b>340</b>	<b>395</b>	<b>395</b>	<b>16.1%</b>	<b>1.6%</b>
米州	28	28	0.2%	-19.1%	94	115	115	22.6%	2.6%
欧州	22	17	-23.3%	-30.3%	72	80	80	10.4%	4.8%
アジア他	38	31	-19.2%	-31.6%	159	182	182	14.4%	-2.3%
日本	2	4	67.8%	67.8%	15	18	18	21.3%	21.3%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>28</b>	<b>28</b>	<b>0.2%</b>	<b>-</b>	<b>126</b>	<b>135</b>	<b>135</b>	<b>7.6%</b>	<b>-</b>
<b>営業利益</b>	<b>28</b>	<b>26</b>	<b>-6.9%</b>	<b>-</b>	<b>126</b>	<b>136</b>	<b>136</b>	<b>7.3%</b>	<b>-</b>

## <売上収益>

### 産業機器

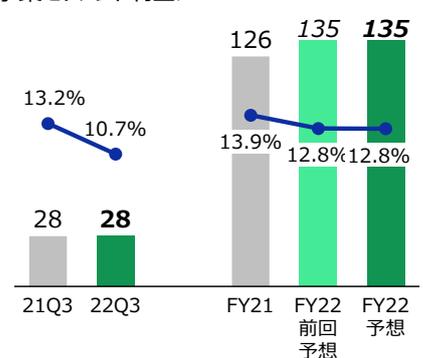


### 工業用マシン



## <事業セグメント利益>

### ● 利益率



© 2023 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

22

マシナリー事業の第3四半期の売上収益は **257** 億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、プラス15.1%となりました。

### ・産業機器

売上収益は、**177** 億円。現地通貨ベースでの伸び率は、プラス 45.7%となりました。  
自動車・一般機械市場向けの需要は引き続き堅調に推移しました。  
部材不足による供給制約の影響はあるものの、  
第2四半期と比べると生産状況は改善に向かい、大幅な増収となりました。

### ・工業用マシン

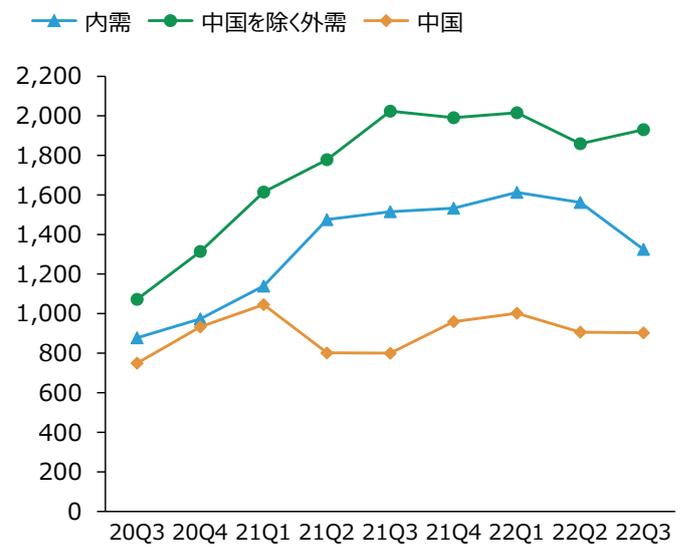
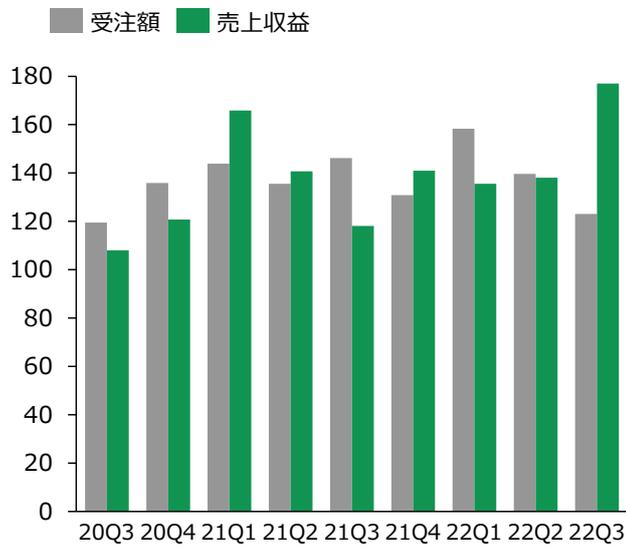
売上収益は、**80** 億円、現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス 24.8%となりました。  
工業用マシンについては、景気後退の懸念を受け、アジア向けアパレル設備投資需要が減少しました。  
ガーメントプリンターについては、米州を中心に販売が減少しました。

事業セグメント利益は、**28** 億円。

販管費の増加や部材コストの高騰などがあったものの、為替のプラス影響もあり、前年同期並みの水準となりました。

受注額・売上収益の推移

（参考）日工会受注統計



※国内・海外の製品本体の受注額合計  
海外受注額は各四半期の為替レートにて円換算

※出所：（一社）日本工作機械工業会 工作機械主要統計より

四半期ごとの売上収益と受注額です。  
受注額は、国内受注と海外受注を合わせた製品本体受注の合計額です。

2022年度第3四半期は、需要は堅調であるものの、部材不足による供給制約の影響を受け、受注額は上期と比べると減少しました。

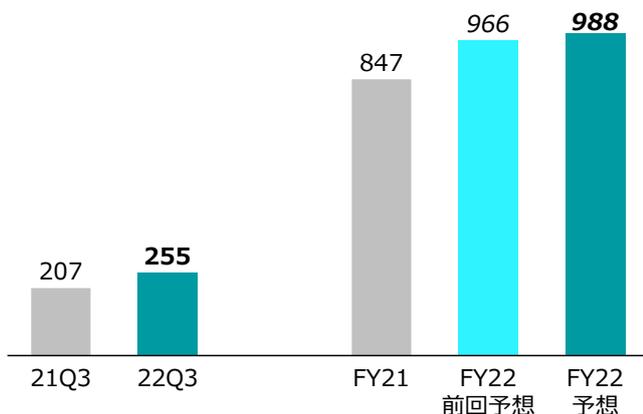
# ドミノ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益



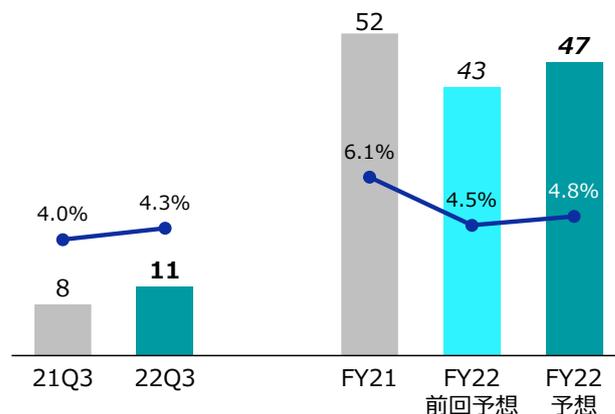
単位：億円

	21Q3	22Q3	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 前回予想	FY22予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>207</b>	<b>255</b>	<b>22.9%</b>	<b>8.2%</b>	<b>847</b>	<b>966</b>	<b>988</b>	<b>16.6%</b>	<b>5.5%</b>
米州	47	63	35.4%	19.4%	202	233	238	17.7%	5.9%
欧州	92	108	17.4%	4.3%	379	416	428	12.9%	3.1%
アジア他	61	73	19.3%	1.7%	237	276	282	19.0%	4.8%
日本	7	10	42.9%	42.9%	30	41	41	36.8%	36.8%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>8</b>	<b>11</b>	<b>35.1%</b>	-	<b>52</b>	<b>43</b>	<b>47</b>	<b>-9.4%</b>	-
<b>営業利益</b>	<b>8</b>	<b>3</b>	<b>-63.1%</b>	-	<b>43</b>	<b>42</b>	<b>47</b>	<b>8.5%</b>	-

<売上収益>



<事業セグメント利益> ● 利益率



© 2023 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

24

ドミノ事業の第3四半期の売上収益は **255** 億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、プラス 8.2%となりました。

製品本体は、C&Mが堅調に推移しました。  
消耗品についてはC&M・DPともに引き続き堅調に推移しています。

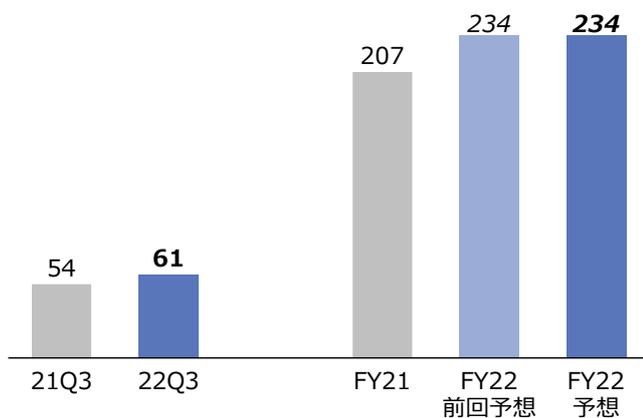
事業セグメント利益は、**11** 億円。  
主に為替のプラス影響により増益となりました。

営業利益は、為替差損により **3**億円 となりました。

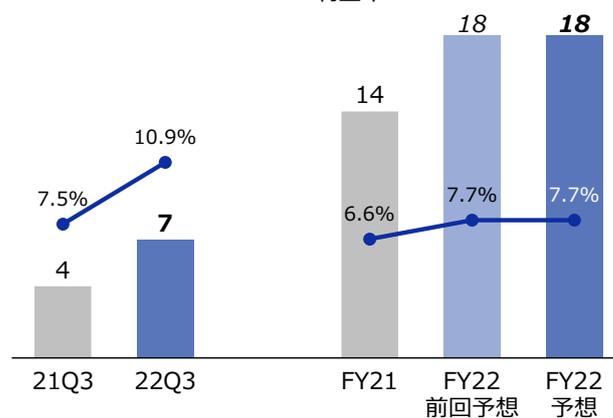
単位：億円

	21Q3	22Q3	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 前回予想	FY22予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	54	61	13.2%	7.6%	207	234	234	12.8%	8.3%
米州	7	11	58.0%	26.9%	30	37	38	25.3%	3.9%
欧州	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アジア他	8	10	24.8%	14.0%	28	35	36	28.5%	16.8%
日本	39	40	2.8%	2.8%	149	162	160	7.5%	7.5%
事業セグメント利益	4	7	65.3%	-	14	18	18	30.8%	-
営業利益	4	7	56.1%	-	13	16	17	26.0%	-

<売上収益>



<事業セグメント利益> ● 利益率



© 2023 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

25

ニッセイ事業の第3四半期の売上収益は **61** 億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、プラス 7.6%となりました。

工場における自動化ニーズの高まりなど、設備投資需要の拡大により、減速機が好調に推移しました。

事業セグメント利益は、**7** 億円。  
増収効果に為替のプラス影響も加わり、増益となりました。

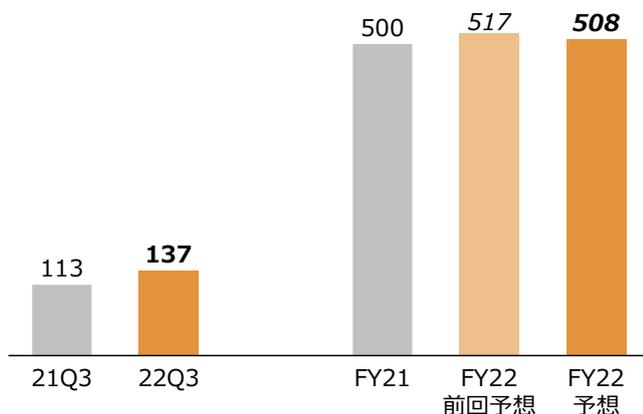
# パーソナル&ホーム事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

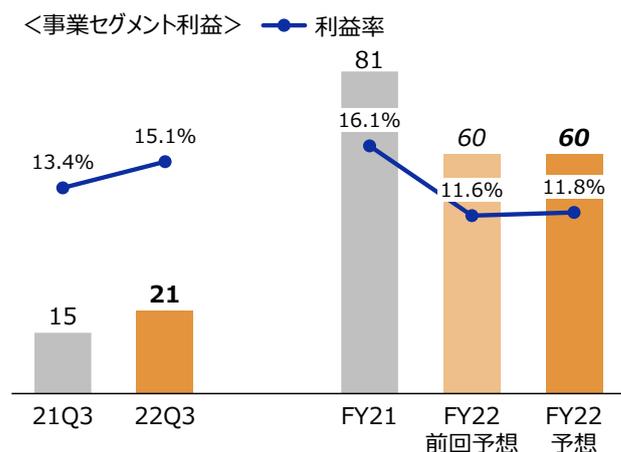
単位：億円

	21Q3	22Q3	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 前回予想	FY22予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>113</b>	<b>137</b>	<b>20.8%</b>	<b>2.8%</b>	<b>500</b>	<b>517</b>	<b>508</b>	<b>1.6%</b>	<b>-11.2%</b>
米州	63	84	33.8%	8.5%	277	325	317	14.5%	-4.3%
欧州	31	33	3.5%	-6.1%	140	106	108	-22.8%	-27.8%
アジア他	13	14	5.3%	-6.1%	52	55	53	3.2%	-6.8%
日本	6	6	9.3%	9.3%	31	31	29	-5.7%	-5.7%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>15</b>	<b>21</b>	<b>36.2%</b>	<b>-</b>	<b>81</b>	<b>60</b>	<b>60</b>	<b>-25.7%</b>	<b>-</b>
<b>営業利益</b>	<b>16</b>	<b>21</b>	<b>33.6%</b>	<b>-</b>	<b>82</b>	<b>60</b>	<b>61</b>	<b>-25.7%</b>	<b>-</b>

<売上収益>



<事業セグメント利益>



© 2023 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

26

P&H事業の第3四半期の売上収益は **137** 億円、  
現地通貨ベースの伸び率では、プラス2.8%となりました。

巣ごもり需要が一巡したものの、供給制約のあった前年同期と比較すると、  
主に米州で販売が堅調に推移し増収となりました。

事業セグメント利益は、**21**億円。  
増収効果により増益となりました。

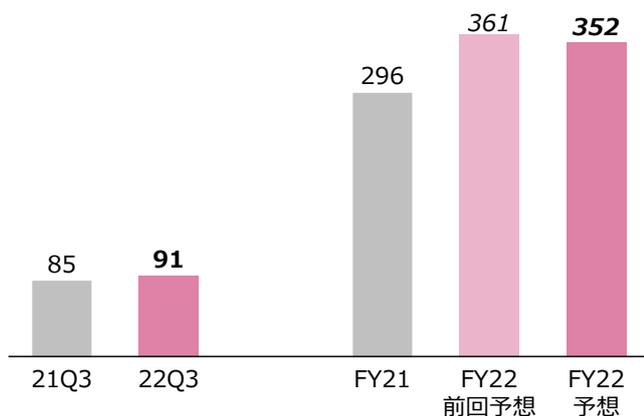
# ネットワーク&コンテンツ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

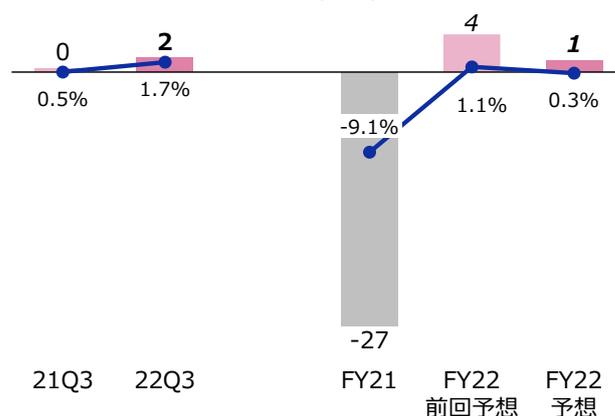
単位：億円

	21Q3	22Q3	増減率	FY21	FY22 前回予想	FY22予想	対前年 増減率
売上収益	85	91	6.8%	296	361	352	19.1%
事業セグメント利益	0	2	265.2%	-27	4	1	-
営業利益	12	1	-91.1%	-6	4	4	-

<売上収益>



<事業セグメント利益> ● 利益率



© 2023 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

27

N&C事業の第3四半期の売上収益は **91** 億円。  
前年同期比 プラス 6.8%となりました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動規制の緩和により客足が回復し、  
カラオケ店舗の売上が回復するとともに、カラオケ機器の販売が堅調に推移しました。

事業セグメント利益は、**2**億円 となりました。

営業利益は、時短協力金や雇用調整助成金などの給付金がなくなりました。

## トピックス

最後に、トピックスです。

インクジェット生産基盤のさらなる強化に向けて、星崎工場の新工場棟が完成



星崎新工場棟（第13工場）



屋上の太陽光パネル

用途 : インクジェットヘッドおよび  
関連部品の生産  
投資額 : 約100億円  
稼働開始 : 2023年1月

#### ■ マテリアリティに関連する取り組み

- BCP対応の一環として、ブラザーグループ初の免震構造を採用
- 太陽光パネルの設置により年間約60トンのCO<sub>2</sub>排出削減を実現

ブラザー工業の星崎工場（愛知県名古屋市）で2020年8月より建設を進めてきた新工場棟「星崎第13工場」が2023年1月に完成しました。

中期戦略「CS B2024」（2022年度～2024年度）では、産業用領域の飛躍として「産業用インクジェット生産拠点の強化」を重点施策の1つに掲げています。

この星崎第13工場は、インクジェットヘッドおよび関連部品の生産強化を担う拠点としてその実現に貢献していきます。

星崎第13工場は、BCP対応の一環として、ブラザーグループ初の免震構造を採用しています。

また、屋上には太陽光パネルを設置し、工場稼働に必要な電力の一部を再生可能エネルギーでまかなうことで、年間約60トンのCO<sub>2</sub>排出削減を実現します。

産業機器事業の大幅成長に向けて、  
自動車・オートバイ市場を中心に成長が見込まれるインドに新工場を建設



完成イメージ

用途 : 工作機械の生産  
 投資額 : 約20億円  
 竣工予定 : 2024年9月  
 場所 : ベンガルール近郊 (トムクール地区)



産業機器の生産拠点

■ マテリアリティに関連する取り組み

- インドのお客様に、**より短納期**で製品をお届けできる体制を構築
- **太陽光パネル**の設置により**年間約600トンのCO<sub>2</sub>排出削減**を実現

続いて産業機器のインド工場建設についてです。

中期戦略「CS B2024」で掲げる「産業機器事業の大幅成長」の達成に向け、  
自動車・オートバイ市場を中心に成長が見込まれるインドに工作機械の新工場を建設します。

工作機械は現在、日本の刈谷工場（愛知県刈谷市）および中国のブラザーマシナリー（西安）で生産していますが、インドに新工場を建設することで、インドのお客様により短納期でお届けできる体制を構築いたします。また、星崎工場同様に太陽光パネルを設置し、工場稼働に必要な電力の一部を再生可能エネルギーでまかなうことで、年間約600トンのCO<sub>2</sub>排出削減を実現します。

投資額は、約20億円を予定しています。

**brother**  
at your side

ビジネス領域		事業		分野（主な製品・サービス群）					
産業用領域	マシンリー・FA領域	ニッセイ		 減速機 歯車	 工作機械	 工業用ミシン			
		マシンリー	産業機器						
	産業用印刷領域		工業用ミシン	工業用ミシン	 ガーメントプリンター	 コーティング・マーキング機器	 デジタル印刷機		
		ドミノ							
民生用領域	プリンティング領域	P&S (プリンティング&ソリューションズ)	ラベリング	業務用ラベリング	 業務用ラベルプリンター	 モバイルプリンター	 ラベルライター	 プリンター	 複合機
			汎用ラベリング	汎用ラベリング					
	ホーム・カルチャー領域	通信・プリンティング		P&H (パーソナル&ホーム)		 家庭用ミシン	 カuttingマシン	 通信カラオケ機器	
N&C (ネットワーク&コンテンツ)									